

伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



つり ばこ
釣 箱

せき ね こう いち ろう
関 根 孝 一 郎

(平成4年度作品)
16mm映画・ビデオ
カラー・16分

プロフィール

住所、荒川7-30-10。

大正10年(1921)、東京都生まれ。

平成3年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

父親の孝次郎氏(初代「箱孝」)は、浅草田町の箱屋で修業した。保持者孝一郎さんは小学校修了と同時に父親に師事、親譲りのきめ細やかな技術を身につけ、この道一筋に50余年。2代目「箱孝」を名乗る。

北海檜とよばれる木材で、フナ箱、タナゴ箱、餌箱などを注文によりこしらえている。

カーボンロッドの釣竿、強化プラスチック製の釣箱、アイスボックスなど、釣具もずいぶん様変わりをしたが、東京でただ一人、この伝統の技を伝える関根さんは、檜材で今も釣箱をこしらえ続けている。

企画 東京都荒川区教育委員会・製作 毎日映画社

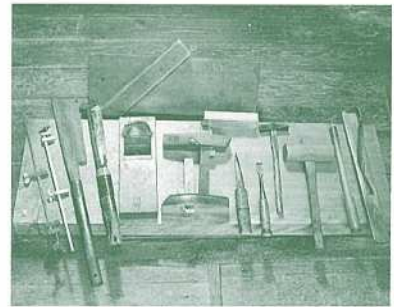
用具・工具

鋸、カンナ、ケビキ、ハタガネ、ノミ、キリ、飯糊、ひも、木釘（ウツギ、エゴノキ）。

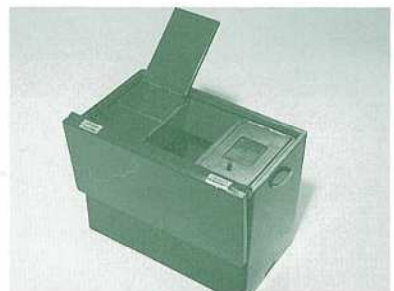
素材の板は、北海檜とよばれるエゾ松。高価な木曽檜や桐の特注品もある。

工程——北海檜材の「釣箱」の場合——

- (1) 木取り——素材の板にケビキを使って、釣箱の本体と中箱の寸法をとる。
- (2) 寸法通りに板を切って削る（順序は、足、中箱、本体へと進める）
- (3) 削った各板を濡れた布でしめらせる(作業がしやすくなる)。
- (4) ご飯粒をよくすり潰し、糊をつくる。
- (5) 板に糊をつけながら本体を組み立てる。まず本体に足をつけ、ひもでしばって固定する。
- (6) キリで木釘を打ち込む穴をあけ、ウツギで作った木釘を打ち込む。
- (7) 中箱の受けを組み立てる。
- (8) 本体の底板に足を取り付ける。
- (9) トンボと呼ばれるマイキリで中箱の木釘穴をあけ、エゴノキの木釘を打ち込む。
- (10) 本体に引き手を付ける。
- (11) ふたの蝶番ちょうつがいを取り付ける。
- (12) 最後に黒ウルシを塗って仕上げる。



道具のいろいろ



完成した釣箱

利用される方は ☎ **3891-4349**

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。

※16ミリ映画は、団体登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。